

2023年2月15～16日に釧路水産試験場試験調査船「北辰丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分の観測結果をお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

噴火湾内および湾外では大気からの冷却により鉛直混合が進み、水温は海面から海底までほぼ一様となっています。湾内、湾外いずれも水温は2～4℃台で、平年と比較するとほぼ同様か約1℃高くなっていますが、前年と比較すると1～4℃前後高くなっています (St.22, St.31の底層を除く)。

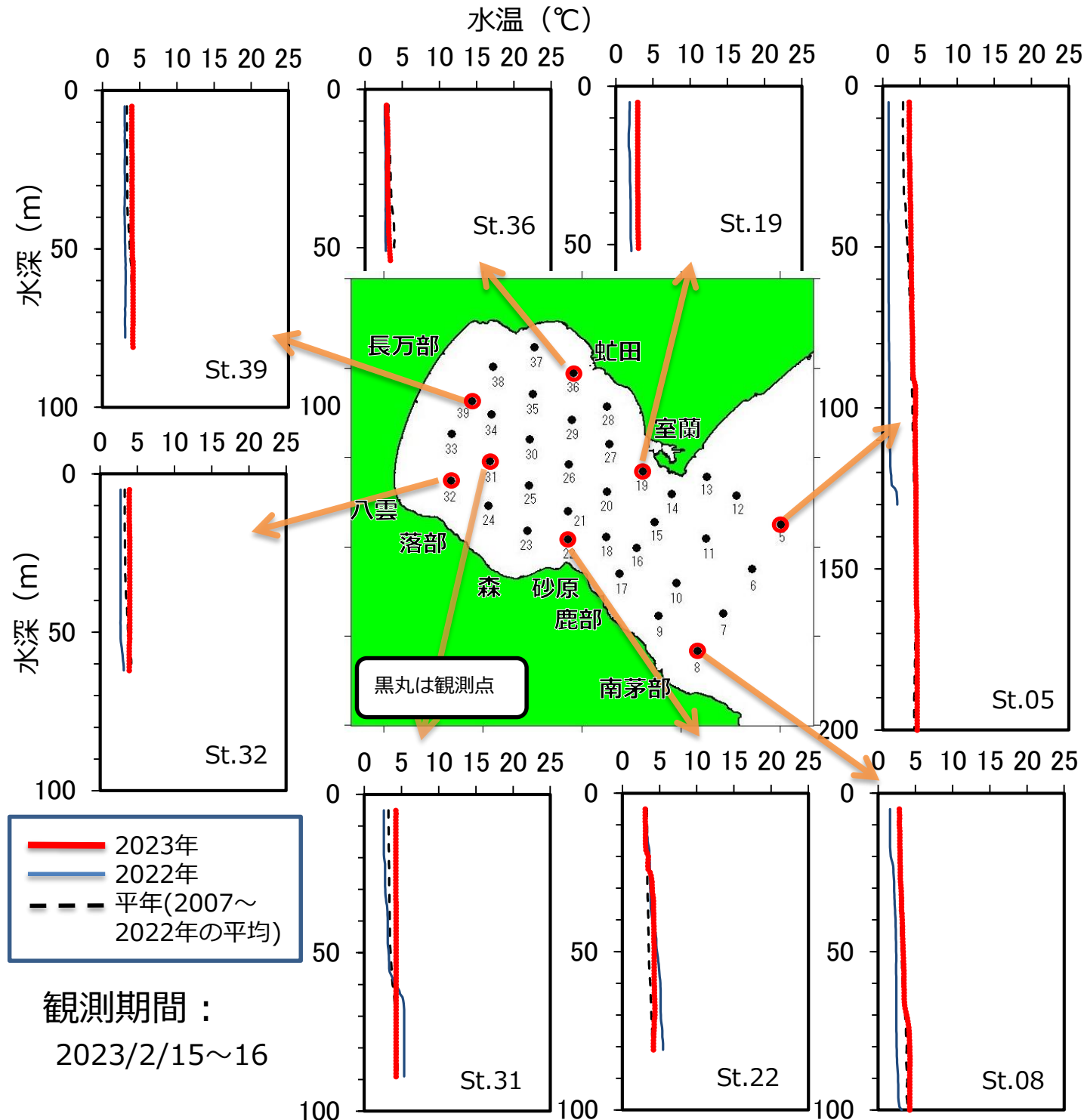


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水温，塩分の水平分布】

調査海域の深度20mの水温は2～4℃台，塩分は32.8～33.7の範囲でした。噴火湾外には低温で低塩分な親潮系水（水温3℃以下，塩分33.3以下）が分布していますが，昨年同時期と比べて湾内への流入は遅れています。

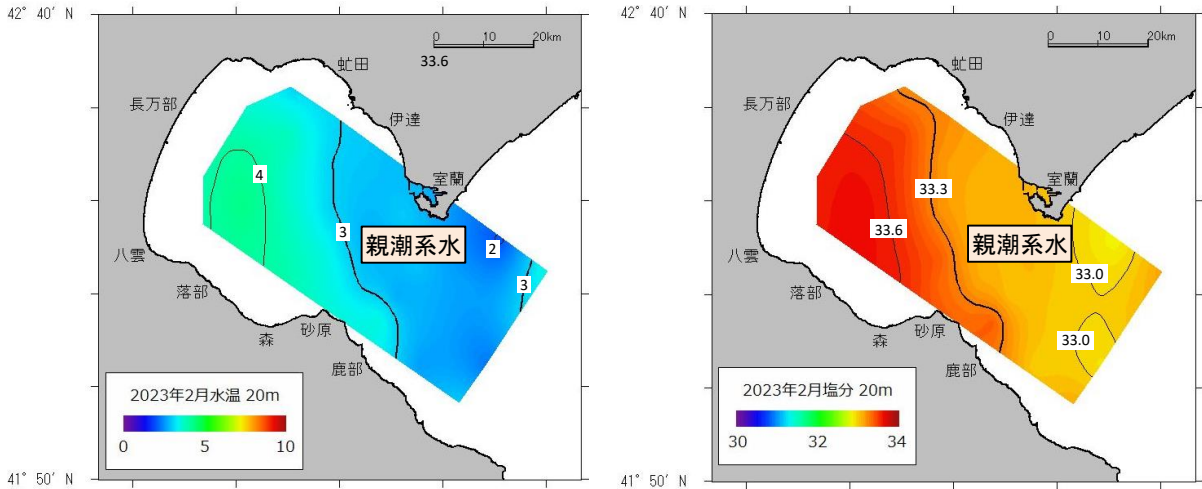


図2 深度20mにおける水温（左）と塩分（右）の水平分布（2023年2月）

【襟裳岬以西の親潮系水の分布状況】

上述した親潮系水は冬季に道東太平洋から噴火湾に流れてきます。襟裳岬以西の水温と塩分の水平分布を見ると，前年同期（図3上）は親潮系水が恵山沖まで広く張り出し，胆振側から湾内に流入していましたが，今年（図3下）は沿岸寄りに分布しており，湾内への流入は胆振側の一部のみとなっています。

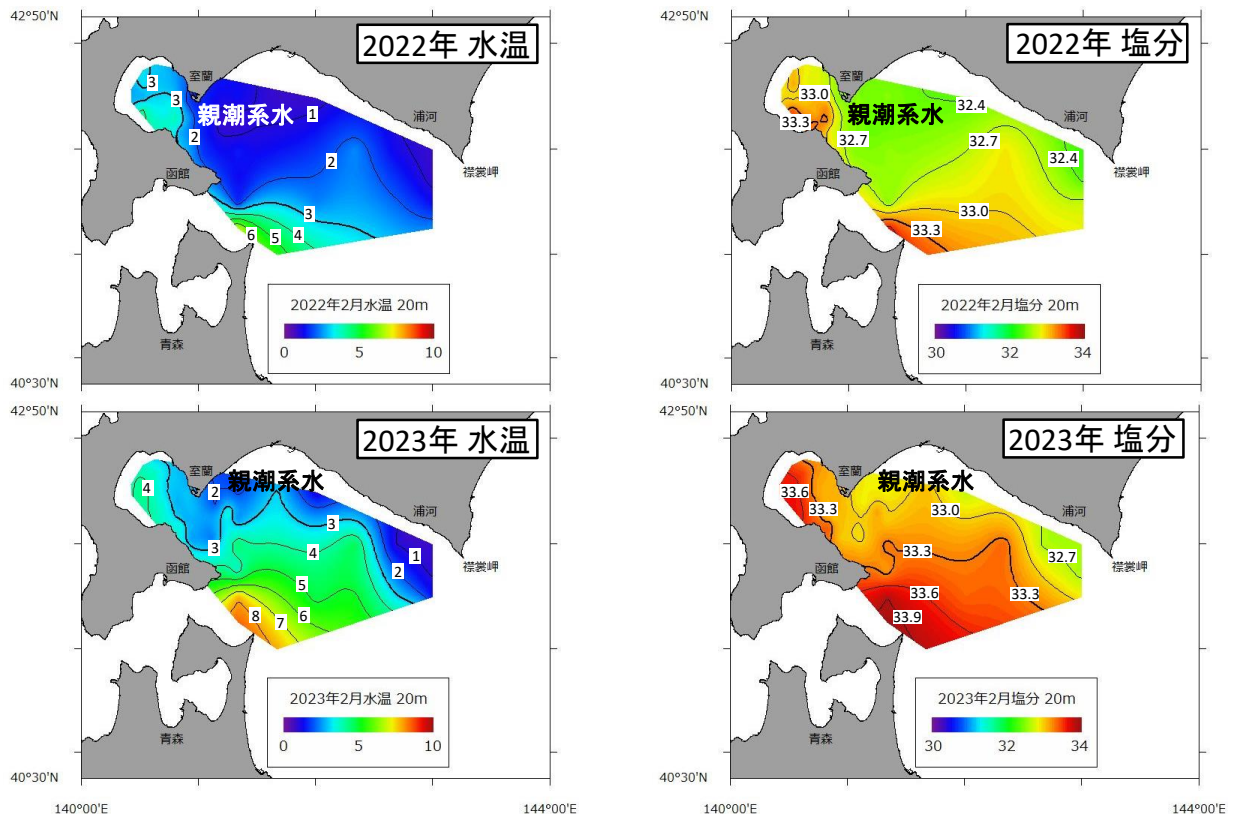


図3 襟裳岬以西における深度20mの水温と塩分の水平分布（上：2022年2月，下：2023年2月）
（資料：北辰丸による定期海洋観測結果）